

【表紙】

| | |
|------------|--|
| 【提出書類】 | 四半期報告書 |
| 【根拠条文】 | 金融商品取引法第24条の4の7第1項 |
| 【提出先】 | 東海財務局長 |
| 【提出日】 | 平成28年2月5日 |
| 【四半期会計期間】 | 第59期第3四半期（自平成27年10月1日至平成27年12月31日） |
| 【会社名】 | 萩原電気株式会社 |
| 【英訳名】 | HAGIWARA ELECTRIC CO.,LTD. |
| 【代表者の役職氏名】 | 取締役社長 岩井三津雄 |
| 【本店の所在の場所】 | 名古屋市東区東桜二丁目3番3号 |
| 【電話番号】 | 052(931)3511(代表) (注) 上記は登記上の本店所在地であり、実際の本社業務は下記において 行っております。 名古屋市東区東桜二丁目2番1号 高岳パークビル 電話番号052(931)3511(代表) |
| 【事務連絡者氏名】 | 取締役副社長コーポレート管理ユニット長 福嶋洋二 |
| 【最寄りの連絡場所】 | 名古屋市東区東桜二丁目2番1号 高岳パークビル |
| 【電話番号】 | 052(931)3511(代表) |
| 【事務連絡者氏名】 | 取締役副社長コーポレート管理ユニット長 福嶋洋二 |
| 【縦覧に供する場所】 | 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) 株式会社名古屋証券取引所 (名古屋市中区栄三丁目8番20号) 萩原電気株式会社 東京支店 (東京都港区芝公園二丁目10番1号 住友不動産芝園ビル) |

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

| 回次 | 第58期 第3四半期 連結累計期間 | 第59期 第3四半期 連結累計期間 | 第58期 |
|----------------------------------|------------------------------|------------------------------|-----------------------------|
| 会計期間 | 自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日 | 自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日 | 自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日 |
| 売上高 (百万円) | 64,424 | 67,710 | 89,014 |
| 経常利益 (百万円) | 1,920 | 2,009 | 2,869 |
| 親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円) | 1,182 | 1,263 | 1,831 |
| 四半期包括利益又は包括利益 (百万円) | 1,351 | 1,220 | 2,184 |
| 純資産額 (百万円) | 22,496 | 23,967 | 23,328 |
| 総資産額 (百万円) | 45,037 | 47,387 | 46,670 |
| 1株当たり四半期(当期)純利 益金額 (円) | 142.43 | 152.15 | 220.47 |
| 潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益金額 (円) | - | - | - |
| 自己資本比率 (%) | 50.0 | 50.6 | 50.0 |

| 回次 | 第58期 第3四半期 連結会計期間 | 第59期 第3四半期 連結会計期間 |
|-------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| 会計期間 | 自 平成26年10月1日 至 平成26年12月31日 | 自 平成27年10月1日 至 平成27年12月31日 |
| 1株当たり四半期純利益金額 (円) | 47.26 | 46.75 |

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)等を適用し、第1四半期連結累計期間より、「四半期(当期)純利益」を「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益」としております。
- 4 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生または前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1)業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、期初からの円安基調の継続、原油安を背景とした企業業績の改善を受け、設備投資や雇用環境に改善の兆しがみられるなど穏やかな回復傾向となりました。

一方、中国をはじめとするアジアの新興国の景気減速等の海外リスクが顕在化しており、依然先行き不透明な状況となっております。

このような環境のもと、当社グループの主要ユーザーである自動車関連企業では、国内及び東南アジア市場においては停滞感がある中、引き続き好調な北米市場で販売を伸ばすなど、まだら模様の動きとなったものの、業績は概ね堅調に推移してまいりました。

当社グループにおきましては、総力をあげて売上高の伸長に努めるとともに、継続的な販売費及び一般管理費の抑制を進めるなど収益の確保に努めてまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、677億10百万円（前年同四半期比5.1%増）、営業利益は20億65百万円（前年同四半期比9.2%増）、経常利益は20億9百万円（前年同四半期比4.6%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は12億63百万円（前年同四半期比6.8%増）の増収増益となりました。

セグメントの業績は、次のとおりです。

(デバイスビジネスユニット事業)

デバイスビジネスユニット事業におきましては、自動車関連企業向けを主力に、マイクロプロセッサ、システムLSI、アナログ・パワー半導体、コンデンサ、リレー、コネクタ等の販売ビジネス、システムLSI設計、ソフトウェア開発等の技術サポートビジネスを展開しております。

当第3四半期連結累計期間におきましては、原油安の影響や主力車種のモデルチェンジを控えたハイブリッド車を中心としたエコカー生産需要が弱含みで推移したものの、足元での新型ハイブリッド車の好調な需要などもあり、デバイスビジネスユニット事業の売上高は、562億円（前年同四半期比4.1%増）、営業利益は23億71百万円（前年同四半期比0.4%増）となりました。

(ソリューションビジネスユニット事業)

ソリューションビジネスユニット事業におきましては、お客様に対し、自社製品を含めたIT機器の提供やアプリケーション開発をはじめとする課題解決型ソリューション提供ビジネス、計測分野やITプラットフォーム基盤構築分野におけるソリューション提供ビジネス、お客様製品に組み込まれる電子機器の販売ビジネス、電子・情報プロダクツの開発・製造ビジネスを展開しております。

当第3四半期連結累計期間におきましては、主要顧客企業である自動車関連企業をはじめとした企業の設備投資需要や情報化投資需要を的確に捉えると共に、FA・計測分野における提案活動、協業企業との展示会開催等をはじめとする当社認知度向上策を背景とした需要拡大により、ソリューションビジネスユニット事業の売上高は115億9百万円（前年同四半期比10.2%増）、営業利益は6億26百万円（前年同四半期比63.3%増）の増収増益となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産)

資産合計は、前連結会計年度末に比べて7億16百万円増加し473億87百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べて8億25百万円増加し428億13百万円となりました。これは主に、現金及び預金が1億2百万円減少しましたが、電子記録債権が5億89百万円及び商品及び製品が2億79百万円増加したことによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて1億9百万円減少し45億73百万円となりました。

(負債)

負債合計は、前連結会計年度末に比べて77百万円増加し234億19百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べて14億51百万円増加し202億35百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金が2億89百万円及び未払法人税等が4億46百万円減少しましたが、短期借入金が8億31百万円及び1年内返済予定の長期借入金が17億50百万円増加したことによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて13億73百万円減少し31億83百万円となりました。これは主に、長期借入金が13億36百万円減少したことによるものであります。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて6億39百万円増加し239億67百万円となりました。

この結果、自己資本比率は50.6%（前連結会計年度末は50.0%）となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、91百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

| 種類 | 発行可能株式総数(株) |
|------|-------------|
| 普通株式 | 16,000,000 |
| 計 | 16,000,000 |

【発行済株式】

| 種類 | 第3四半期 会計期間末現在 発行数(株) (平成27年12月31日) | 提出日現在 発行数(株) (平成28年2月5日) | 上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引業協会名 | 内容 |
|------|---|--------------------------------|--------------------------------|----------------------|
| 普通株式 | 8,318,000 | 8,318,000 | 東京証券取引所 名古屋証券取引所 各市場第一部 | 単元株式数は 100株であります。 |
| 計 | 8,318,000 | 8,318,000 | - | - |

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年月日 | 発行済株式 総数増減数 (株) | 発行済株式 総数残高 (株) | 資本金増減額 (百万円) | 資本金残高 (百万円) | 資本準備金 増減額 (百万円) | 資本準備金 残高 (百万円) |
|----------------------------|-----------------------|----------------------|-----------------|----------------|-----------------------|----------------------|
| 平成27年10月1日～ 平成27年12月31日 | - | 8,318,000 | - | 3,301 | - | 2,076 |

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成27年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成27年12月31日現在

| 区分 | 株式数(株) | 議決権の数(個) | 内容 |
|----------------|-------------------------|----------|----|
| 無議決権株式 | - | - | - |
| 議決権制限株式(自己株式等) | - | - | - |
| 議決権制限株式(その他) | - | - | - |
| 完全議決権株式(自己株式等) | (自己保有株式) 普通株式 12,400 | - | - |
| 完全議決権株式(その他) | 普通株式 8,301,200 | 83,012 | - |
| 単元未満株式 | 普通株式 4,400 | - | - |
| 発行済株式総数 | 8,318,000 | - | - |
| 総株主の議決権 | - | 83,012 | - |

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式71株が含まれております。

【自己株式等】

平成27年12月31日現在

| 所有者の氏名又は名称 | 所有者の住所 | 自己名義 所有株式数 (株) | 他人名義 所有株式数 (株) | 所有株式数 の合計 (株) | 発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合 (%) |
|----------------------|---------------------|----------------------|----------------------|---------------------|------------------------------------|
| (自己保有株式) 萩原電気株式会社 | 名古屋市東区東桜 二丁目3番3号 | 12,400 | - | 12,400 | 0.15 |
| 計 | - | 12,400 | - | 12,400 | 0.15 |

(注) 自己株式は、全て当社名義となっており、実質的に所有しております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成27年10月1日から平成27年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成27年4月1日から平成27年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成27年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 5,263 | 5,160 |
| 受取手形及び売掛金 | 25,512 | 1 25,507 |
| 電子記録債権 | 682 | 1,271 |
| 有価証券 | - | 100 |
| 商品及び製品 | 9,438 | 9,717 |
| 仕掛品 | 237 | 388 |
| 原材料及び貯蔵品 | 155 | 141 |
| その他 | 701 | 530 |
| 貸倒引当金 | 3 | 3 |
| 流動資産合計 | 41,987 | 42,813 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | 2,703 | 2,675 |
| 無形固定資産 | 189 | 151 |
| 投資その他の資産 | | |
| その他 | 1,811 | 1,768 |
| 貸倒引当金 | 21 | 21 |
| 投資その他の資産合計 | 1,790 | 1,747 |
| 固定資産合計 | 4,682 | 4,573 |
| 資産合計 | 46,670 | 47,387 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 11,929 | 1 11,639 |
| 短期借入金 | 4,024 | 4,855 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 794 | 2,545 |
| 未払法人税等 | 555 | 109 |
| その他 | 1,479 | 1,085 |
| 流動負債合計 | 18,784 | 20,235 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 4,008 | 2,672 |
| 退職給付に係る負債 | 66 | 12 |
| その他 | 482 | 498 |
| 固定負債合計 | 4,557 | 3,183 |
| 負債合計 | 23,341 | 23,419 |

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成27年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------------|
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 3,301 | 3,301 |
| 資本剰余金 | 3,792 | 3,792 |
| 利益剰余金 | 15,571 | 16,254 |
| 自己株式 | 12 | 12 |
| 株主資本合計 | 22,653 | 23,335 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 261 | 233 |
| 為替換算調整勘定 | 342 | 323 |
| 退職給付に係る調整累計額 | 70 | 75 |
| その他の包括利益累計額合計 | 675 | 632 |
| 純資産合計 | 23,328 | 23,967 |
| 負債純資産合計 | 46,670 | 47,387 |

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日) |
|------------------|--|--|
| 売上高 | 64,424 | 67,710 |
| 売上原価 | 58,056 | 61,024 |
| 売上総利益 | 6,367 | 6,685 |
| 販売費及び一般管理費 | 4,476 | 4,620 |
| 営業利益 | 1,891 | 2,065 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 3 | 5 |
| 受取配当金 | 10 | 13 |
| 業務受託手数料 | 25 | 9 |
| 為替差益 | 37 | - |
| その他 | 11 | 13 |
| 営業外収益合計 | 88 | 42 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 36 | 36 |
| 為替差損 | - | 41 |
| 売上債権売却損 | 17 | 15 |
| その他 | 4 | 5 |
| 営業外費用合計 | 58 | 99 |
| 経常利益 | 1,920 | 2,009 |
| 特別利益 | | |
| 投資有価証券売却益 | - | 0 |
| 特別利益合計 | - | 0 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産処分損 | 2 | 3 |
| 特別損失合計 | 2 | 3 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 1,918 | 2,005 |
| 法人税等 | 735 | 741 |
| 四半期純利益 | 1,182 | 1,263 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 1,182 | 1,263 |

【四半期連結包括利益計算書】
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日) |
|-----------------|--|--|
| 四半期純利益 | 1,182 | 1,263 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 89 | 27 |
| 為替換算調整勘定 | 62 | 19 |
| 退職給付に係る調整額 | 17 | 4 |
| その他の包括利益合計 | 168 | 42 |
| 四半期包括利益 | 1,351 | 1,220 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 1,351 | 1,220 |

【注記事項】

(会計方針の変更)

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日)等を第1四半期連結会計期間から適用し、四半期純利益等の表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間については、四半期連結財務諸表の組替えを行っております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。

なお、当四半期連結会計期間の末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末日残高に含まれております。

| | 前連結会計年度 (平成27年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日) |
|------|-------------------------|-------------------------------|
| 受取手形 | - 百万円 | 30百万円 |
| 支払手形 | - 百万円 | 209百万円 |

2 当社は、機動的かつ安定的な資金調達枠の確保のため取引銀行3行とコミットメントライン契約を締結しております。これらの契約に基づく四半期連結会計期間末の借入未実行残高は次のとおりであります。

| | 前連結会計年度 (平成27年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------------|
| コミットメントラインの総額 | 4,000百万円 | 4,000百万円 |
| 借入実行残高 | - 百万円 | - 百万円 |
| 差引額 | 4,000百万円 | 4,000百万円 |

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日) |
|-------|--|--|
| 減価償却費 | 159百万円 | 145百万円 |

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (百万円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|----------------------|-------|-----------------|-----------------|------------|------------|-------|
| 平成26年6月27日 定時株主総会 | 普通株式 | 274 | 33.00 | 平成26年3月31日 | 平成26年6月30日 | 利益剰余金 |
| 平成26年11月6日 取締役会 | 普通株式 | 207 | 25.00 | 平成26年9月30日 | 平成26年12月5日 | 利益剰余金 |

当第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (百万円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|----------------------|-------|-----------------|-----------------|------------|------------|-------|
| 平成27年6月26日 定時株主総会 | 普通株式 | 290 | 35.00 | 平成27年3月31日 | 平成27年6月29日 | 利益剰余金 |
| 平成27年11月6日 取締役会 | 普通株式 | 290 | 35.00 | 平成27年9月30日 | 平成27年12月4日 | 利益剰余金 |

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | 調整額 (注)1 | 四半期連結損益 計算書計上額 (注)2 |
|-----------------------|------------------------|---------------------------|--------|-------------|---------------------------|
| | デバイス ビジネス ユニット事業 | ソリューション ビジネス ユニット事業 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 53,981 | 10,443 | 64,424 | - | 64,424 |
| セグメント間の内部売上高 又は振替高 | 83 | 42 | 126 | 126 | - |
| 計 | 54,064 | 10,485 | 64,550 | 126 | 64,424 |
| セグメント利益 | 2,361 | 383 | 2,745 | 854 | 1,891 |

(注)1 セグメント利益の調整額 854百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

「会計方針の変更」に記載のとおり、第1四半期連結会計期間より退職給付債務及び勤務費用の計算方法を変更したことに伴い、報告セグメントの退職給付債務及び勤務費用の計算方法を同様に変更しております。

なお、当該変更が当第3四半期連結累計期間のセグメント利益に与える影響は軽微であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | 調整額 (注)1 | 四半期連結損益 計算書計上額 (注)2 |
|-----------------------|------------------------|---------------------------|--------|-------------|---------------------------|
| | デバイス ビジネス ユニット事業 | ソリューション ビジネス ユニット事業 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 56,200 | 11,509 | 67,710 | - | 67,710 |
| セグメント間の内部売上高 又は振替高 | 96 | 29 | 125 | 125 | - |
| 計 | 56,296 | 11,539 | 67,835 | 125 | 67,710 |
| セグメント利益 | 2,371 | 626 | 2,998 | 932 | 2,065 |

(注)1 セグメント利益の調整額 932百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(金融商品関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(有価証券関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| 項目 | 前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日) |
|--------------------------------|--|--|
| 1株当たり四半期純利益金額 | 142円43銭 | 152円15銭 |
| (算定上の基礎) | | |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円) | 1,182 | 1,263 |
| 普通株主に帰属しない金額(百万円) | - | - |
| 普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円) | 1,182 | 1,263 |
| 普通株式の期中平均株式数(株) | 8,305,629 | 8,305,532 |

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

第59期(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)中間配当については、平成27年11月6日開催の取締役会において、平成27年9月30日の株主名簿に記載された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

| | |
|--------------------|------------|
| 中間配当金の総額 | 290百万円 |
| 1株当たり中間配当金 | 35円00銭 |
| 支払請求権の効力発生日及び支払開始日 | 平成27年12月4日 |

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年2月5日

萩原電気株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 柏 木 勝 広

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 新 家 徳 子

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている萩原電気株式会社の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成27年10月1日から平成27年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成27年4月1日から平成27年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、萩原電気株式会社及び連結子会社の平成27年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。